

第5回 西尾市多文化共生協議会 議事概要

日時	2021年8月3日(金) 14:00~15:30
場所	オンライン会議
出席者	近藤敦会長、木下典子委員、磯貝明美委員、川部國弘委員、岩瀬恵委員、内田誠委員、高橋文華委員、川口佐織委員、平田具大委員
欠席者	土井佳彦委員、高木祐子委員、手嶋修一委員
事務局	西尾市 手嶋課長、蛭川課長補佐、稲吉主事、加藤主事 MURC 南田、岩室

1. 開会

地域つながり課 稲吉主事

- ・ 土井委員、高木委員、手嶋委員が欠席。
- ・ 次第に沿って、進めていきたい。

2. 議題

(1) 今年度の策定スケジュールについて

ー資料1にもとづき、西尾市より説明。

近藤会長

- ・ 委員から特に意見や質問はないので、次の議題に移る。

(2) プランの素案について

ー資料2にもとづき、西尾市・MURCより説明。

4-1 誰もが活躍できる

川部委員

- ・ 地域防災や地域活動の中での外国人のキーパーソンの育成とあるが、具体的な手段が見えてこない。外国人とともにつくる、西尾市の地域構築の具体的な手段を明記してほしい。
- ・ 私たちの町内会では、自主防災等を外国人に担ってもらわないと人員が足りない。育成するという悠長なことを言っている段階ではない。危機感を持って、住民の安心安全対策に具体的に取り組んでいく必要がある。

事務局(稲吉)

- ・ これからの方向性を示すプランで、方針を基に担当課が主体となり具体的な方法を検討していくことになる。
- ・ 消防団については、外国人の参加状況を確認しているところ。関係機関の意向をふまえ、担当課に確認をして明文化していきたい。

近藤会長

- ・ 多文化防災サポーターが消防団員も兼ねることはできるのか。それとも、サポーターは消防団員にはなれないのか。

事務局（稲吉）

- ・ まだはっきりとは決めていないが、消防団員として知識を持つ人や母国で消防関係に携わっていた人もいると思うので、兼ねることもできていると考えている。

事務局（MURC）

- ・ 重点プロジェクトにあるものは、具体的に動いていくことを想定して記載している。
- ・ 多文化防災サポーターは具体化の検討をしているので、助言をいただきたい。なお今回は、4の「活躍」という意味で多文化防災サポーターを具体例として取り上げている。防災をテーマとした取組については、次回、検討していきたい。

川部委員

- ・ 2018年に県が地域の多文化共生コーディネーターの育成研修事業を行った。そういう方々は県にコーディネーター登録をしており、つなぎ役として地域で活躍していく土台ができていると思うが、西尾市から参加した人たちの活動状況はいかがか。

事務局（稲吉）

- ・ 市としては、把握していない。

川口委員

- ・ 2018年度に西尾市を含む県内3市で育成研修を実施し、76人が修了している。現在の活動状況までは把握していないが、メーリングリストでイベントの周知をしている。メールアドレスが変わり、情報が届いていない人もいる。そういう人を取っ掛かりとして進めるのは良いと思う。防災だけではなく、さまざまな活動の広報等のお手伝いをしていただくためには、いろいろなチャンネルを持っていた方が良いと思う。

- ・ P13 の新規事業は、これから市が実施していくことか。

事務局（稲吉）

- ・ そのとおりである。

内田委員

- ・ 町内会のアンケート結果が掲載されているが、町内会によってレベルが全然違うのではないか。外国人は町内会にどの程度、入っているのか。私たちの町内会はゼロである。そのような町内会のことを考えるべきではないか。

事務局（稲吉）

- ・ 国籍別の町内会加入率を出すのは難しい。今回の外国人市民アンケートでは、加入している人を拾うことが可能である。

内田委員

- ・ アンケートでは 75%の人が加入していないと出ている。そういう施策はどうするのか。
- ・ 日本人の意識はもっと低いので、日本人向けのビデオを作ってほしい。

事務局（稲吉）

- ・ 何をもって高い、低いと判断することは難しい。多文化共生や外国人が住んでいることをふまえ、基本方針5「誰もが多様性を認め合う」で取り組んでいきたいと考えている。

内田委員

- ・ まずは、町内会に入ってもらうことが基本であろう。
- ・ また、多くの日本人市民は市内に外国人が5%住んでいることを知らないと思う。

事務局（MURC）

- ・ 指摘のとおり、外国人市民アンケートでは追い切れていない部分がある。まだ町内会に入っていない人が多いのが、現状ではないかと考えている。
- ・ 外国人に対して町内会への加入を勧誘するために、日本人向けに啓発を施策に盛り込んだ方がいいという提案であろうか。

内田委員

- ・ そのとおりである。そこは絶対にやるべきである。

事務局（MURC）

- ・ 町内会の加入率を高めるために外国人だけではなく、日本人にも外国人への加入をお誘いする啓発を施策に盛り込むという提案だと思う。

事務局（稲吉）

- ・ P13の「外国人市民に対する町内会への加入促進及び町内会に対する多文化共生への啓発」が、まさに目標である。

内田委員

- ・ それはとても良いので、具体的なビデオを作ってほしい。

近藤会長

- ・ 今の部分は啓発の内容としてビデオ作成を検討してほしい。

川部委員

- ・ 町内会に加入しようというチラシは、日本語版とポルトガル版がある。

内田委員

- ・ それは知っている。町内の町内会未加入の11軒すべてに配布した。そのうち7軒が加入してくれた。
- ・ 文字が読めないので閲覧板が分からない、班長はできないと脱会した人もいる。そこをふまえていただきたい。

川部委員

- ・ 日本人も同様であるが、外国人には町内会が何なのかを説明する必要がある。保見団地のアンケートでは、お金を収めていても町内会に加入しているという自覚がない外国人が多いという結果であった。思っていることとアンケートの回答が異なっていることに留意する必要がある。
- ・ 地域づくりとは、人種・国籍別ではなく、そこに住んでいる人が住みやすいコミュニティをどのようにつくるかということである。

近藤会長

- ・ 町内会の内容紹介や加入の勧誘ビデオをつくり、HPなどのいろいろな媒体で見られるようにしていただきたい。チラシはあるようなので継続し、これらを啓発の中身として記載するのでいかがだろうか。

内田委員

- ・ 地域つながり課は、市内の町内会を束ねている。400ある町内会の会長を、もっとうまくつかってはいかがか。

事務局（稲吉）

- ・ 主な取り組みとして外国人市民に対する加入促進をあげている。アプローチがない人に対して、町内会のチラシの翻訳支援や日本人への多文化共生への啓発を進めていきたい。

内田委員

- ・ 町内会の会議をする場には大きなモニターがある。大人数に説明するなら映像が一番伝わる。

事務局（稲吉）

- ・ 参考にしたい。

近藤会長

- ・ コーディネーターは、いろいろなものに登録していくことになるのか。

事務局（稲吉）

- ・ いろいろな活躍のフィールドがあるので、いろいろな人材を活かしてみんなでまちづくりをしていこうと考えている。

近藤会長

- ・ では、次いで基本方針5「誰もが多様性を認め合う」について説明をお願いしたい。

4-5 誰もが多様性を認め合う

ー資料2にもとづき、西尾市・MURCより説明。

高橋委員

- ・ 外国人向けの新型コロナウイルス感染症のワクチン接種の案内を受けているが、電話予約する際に日本語が話せない外国人はどのようにしたらよいか。サポートはあるのか。

事務局（稲吉）

- ・ 外国人向けコールセンターを土曜日限定で開設している。電話番号は日本人向けコールセンターと同じ。そのコールセンターの存在を知らない人も多いので、情報の周知を図っていききたい。
- ・ 基本方針4に該当するので、次回、検討したい。

高橋委員

- ・ ボランティアバンクは通訳が集まる場所か。現在あるのか。

事務局（稲吉）

- ・ まだこれからである。こういった時に助け合えるような仕組みが必要だと思っている。

高橋委員

- ・ コロナが日本全国でひどくなっているのを、4-3を早く進めていただきたい。新型コロナウイルス感染症は真っ先に取り組むことで、次の会議の11月まで待ってられない。

事務局（稲吉）

- ・ コロナ関係でできることは、すぐにでも始めていきたい。今、皆さんに考えていただいている内容は来年度からの計画なので、今のコロナ対応の取組とは一緒にならない。個別に相談ください。

磯貝委員

- ・ P17の意識啓発について。やさしい日本語の市役所職員向け研修はとても良い。やさしい日本語の存在を知らない市民が多いと思う。町内会のことと同様に、広めていただきたい。これにより緊張が和らぎ、コミュニケーションがとりやすくなり、町内会の理解促進にもつながるのではないかな。

事務局（稲吉）

- ・ 市全体にやさしい日本語を広めることは大切だと思うので、進めていきたい。

内田委員

- ・ 多文化共生をテーマとした出前講座の実施について。町内会の日本人に開催してもらえるとありがたい。期待している。

事務局（稲吉）

- ・ 期待に応えられるようにしたい。

川部委員

- ・ 外国人との交流について。若い人ほど違和感がなく、高齢者の方に違和感があるというのは、背景に教育の影響があるだろう。高齢者にいきなり外国人と仲良くしようと言っても、歩み寄りが難しいだろう。なぜ、西尾市に居住する外国人が多くなったのか、その背景を伝えた上で、多文化共生の必要性を説明するべきである。多文化共生の説明だけでは理解が難しく、日本社会が必要としていることから説明することが重要である。

近藤会長

- ・ 目標の2つ目「互いの文化を理解し合う市民が増える」について。全体の基本方針を「多様性を認め合う」にするなら、もっと多様性という言葉が入らないと弱い感じがする。ここを「多様性を尊重し、互いの文化を理解し合う市民が増える」と修正をしていただきたい。そうすることで、多様性というキーワードが浮かび上がってくる感じがする。尊重する意味で入れてほしい。
- ・ では、続いて次第3に移る。何か意見などはあるだろうか。

3. その他

－MURC より計画書作成のコラム作成のお願い

- ・ 次回の第6回多文化共生協議会は11月を予定している。開催方法は新型コロナウイルス感染症の状況をみて判断する。

内田委員

- ・ 他の部分でも気づいた点はメールしたい。
- ・ 資料2と参考の内容がほぼ同じに見えるが、違いはあるのか。

事務局（MURC）

- ・ 参考については、資料2から漏れている内容である。目次構成が資料の2とほぼ同じなので、そのように見える。あくまで参考なので、資料2を見てほしい。

内田委員

- ・ 今日の協議会の4-1、4-5の意見についてリバイスされたものは出るのか。

事務局（稲吉）

- ・ 取りまとめたものを提示する。

内田委員

- ・ 取りまとめは12月となっている。今後の協議会で出た意見は、確認なしで直接パブリックコメントになるのか。

事務局（稲吉）

- ・ スケジュールどおり、11月の協議会で基本方針2、3、4を検討し、パブコメを経て最終的なプラン内容を2月に提示する。

内田委員

- ・ 2月に出てくるのは、経過ではなくパブリックコメントの結果も含めたものか。そうならば、ぜひビデオは作成してもらいたい。

事務局（稲吉）

- ・ ビデオについては検討材料の一つとさせていただきたい。

川口委員

- ・ 目標管理の指標については、プランに盛り込まれず市の方で進捗管理をしていくということか。

事務局（稲吉）

- ・ 指標については、担当課と調整しながら設定していきたい。

川口委員

- ・ 指標を立てるのは難しいと思うので、よく検討していただきたい。

近藤会長

- ・ 町内会の加入率について、中期目標に居住年数別に検討とある。今日の議論の中で把握は難しいという話が出ていたが、加入率をどのように出す予定なのか。

事務局（稲吉）

- ・ 外国人市民アンケートの回答を想定している。より良い方法があればフレキシブ

ルに対応していきたい。

近藤会長

- ・ 毎年、外国人市民アンケートの加入率の数字を追うということか。

事務局（稲吉）

- ・ その通りだが、より良い方法があればフレキシブルに対応していきたい。

内田委員

- ・ 町内会長は町内のことをよく知っているのだから、そこから把握してはどうか。そちらの方が、アンケートより確かである。

事務局（稲吉）

- ・ 町内会は多様なため、なるべく負担をかけない方法を取って行きたい。市内に町内会は400あり、世帯数にもよるが数十人から千人を超えている、アパートや共同住宅がたくさんある地域などは把握が難しい。そういったところに依頼するのは心苦しい。方法として参考にさせていただきたい。

川部委員

- ・ 外国人の町内会への加入率について調べるならば、公営住宅やビレッジハウスなど集住しているところの町内会長に依頼して、把握するのが良いと思う。

事務局（稲吉）

- ・ 市内全域の数字を求めるのは難しいかもしれないので、モデル地区を設定し追っていくのも良い手段だと思う。

近藤会長

- ・ まだ時間があるので、先ほど高橋委員から出た医療のところについて、もう少し確認してはいかがだろうか。

高橋委員

- ・ ワクチン接種の予約電話は、何回かけてもつながらない。コールセンターが土曜日しかなく時間が合わないこと、つながりやすくないことが心配である。

事務局（稲吉）

- ・ 私が担当課に確認した中では、かかりつけ医での接種を推奨している。告知用のチ

ラシがある。診察券がある病院などがあれば、そこに聞いてもらいたい。

高橋委員

- ・ 私のところで働いている人は日本語が話せないので、通院時には私が通訳としてついていく。会社勤めなら通訳がいるかもしれないが、一般の人が医療機関に行く場合、通訳はどのような状況か。サポートはあるのか。

事務局（稲吉）

- ・ 個別の通訳対応は困難であるため、普段通っている医療機関を利用していただきたい。

川部委員

- ・ ブラジル人については企業での集団接種が進んでいる。予防も含めて、市と企業が連携をして進めていただきたい。
- ・ 言語だけではなく生活習慣が違うので、コロナ禍でも週末に教会に行き、パーティーやバーベキューをし、マスクをせずに飲食もしている。そこに暮らすすべての人が、感染予防対策に気を付けることの大切さを啓発してほしい。

近藤会長

- ・ ワクチン担当はどこの課になるのか。

事務局（稲吉）

- ・ ワクチン接種は保健センターで、健康課が担当課である。

近藤会長

- ・ 次の会議の際に可能であれば健康課参加してもらい、直接やりとりができるとうい。
- ・ また、次回の検討事項に教育のことがあるので担当課に来てもらえるようお願いしたい。

事務局（稲吉）

- ・ 健康課は、かなり多忙で難しいことが予想されるが検討する。

岩瀬委員

- ・ 現在、市内ではワクチン接種について、一連の流れをポルトガル語とベトナム語で翻訳したものでサポートしている。この2言語以外は、厚生労働省のHPに多言語

による予診票の説明等が掲載されている。こういう情報を SNS で発信するなどして、活用すべきである。私自身も活用している。ただ、地域のクリニックには多言語の用意はないので、受診者が自ら用意する必要がある。

事務局（稲吉）

- ・ 予診票など翻訳されていて活用できるツールがあるが、必要な人のもとに届いていないケースが多い。どうすれば情報を届けられるか、活用されるのか。外国人向けの取組に対しても担当課との温度差を感じる。その必要性を今回のプランに盛り込むことで、各課に対する取組の後押しをする必要があると思っている。

近藤会長

- ・ ほかはいかがだろうか。特にないようなので、会議を終了したい。この後は事務局にお願いする。

事務局（稲吉）

- ・ 以上で第5回協議会を終了とする。

以上